

スピードスケート競技者育成方式

—北海道十勝地域を事例として—

本研究では、北海道十勝地域を事例に、スケートリンクや小学生から大学生までの競技者を取り巻く育成主体がどのように変化したのかを、スケートリンクの分布およびその役割の変化、育成主体が基盤とする指導の変化の2点から明らかにした。

育成基盤の変化は競技から発展したのではなく、体育学的な部分から世界一流スピードスケート長距離選手のレース中におけるストレート滑走動作の変化をキネマティクスの的に検討し、疲労に伴う滑走動作の変化の特徴を明らかにすることによって長距離種目における滑走速度の持続に役立つという知見を得た。

北海道十勝では、ここ数年を境に暖冬年が続き天然リンクの数が減少し、少数の人工リンクへと競技者の練習場所が移行した。減少したスケートリンクの多くは小学校区に1カ所以上存在していた天然リンクであった。また、育成主体は小学校の体育の授業や課外活動としてのクラブチームであったが人工リンクの増加および天然リンクの減少もあって北海道十勝地域では、小学校の授業での育成主体は減少しクラブチームを中心とした育成主体へと変化していった。この背景として保護者の職業により異なる時間的制約の存在も指摘されるだろう。